

第 118 回日商簿記 3 級 第 1 問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	当	座	預	金	小	口	現	金	受	取	手	形
売	掛	金	有	価	証	未	収	入	金	仮	払	金	
前	払	金	貸	付	金	未	収	利	息	消	耗	品	
備		品	支	払	手	買	掛	金		商	品	券	
未	払	金	仮	受	金	前	受	金		未	収	利	息
借	入	金	売		上	受	取	利	息	有	価	証	券
仕		入	交	通	費	通	信	費		消	耗	品	費
支	払	利	息		有	価	証	券	売	却	損		

1. 当期首に 1 株 ¥ 700 で購入した鬼小島工業株式会社の株式 10,000 株のうち、5,000 株を 1 株 ¥ 650 で売却し、代金は当座預金口座に振り込まれた。
2. 備品 ¥ 300,000 を本庄商会より購入し、代金のうち ¥ 60,000 は小切手を振り出して支払い、残額については毎月末の 8 回分割払いとした。
3. 前期の決算整理にともない計上した未収利息 ¥ 20,000 につき、当期首に再振替仕訳を行った。
4. 事務用文房具を山浦商店より購入し、代金 ¥ 80,000 は現金で支払った。なお、当店では文房具については決算時に棚卸を行い、当期の使用額を費用に振り替える方法をとっている。
5. 商品 ¥ 100,000 を売り上げ、代金のうち ¥ 60,000 は当店発行の商品券で、残額は現金で受け取った。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	当座預金	3,250,000	有価証券	3,500,000
	有価証券売却損	250,000		
2	備品	300,000	当座預金	60,000
			未払金	240,000
3	受取利息	20,000	未収利息	20,000
4	消耗品	80,000	現金	80,000
5	商品券	60,000	売上	100,000
	現金	40,000		

・解説

1. 有価証券の売却に関する問題です。

帳簿価額と売却価額との差額を売却損益で処理しますが、売却したのは当期首に買入れた10,000株のうちの半分(5,000株)です。うっかり10,000株で計算しないように気をつけましょう。

- ・帳簿価額：5,000株×@700円＝3,500,000円
- ・売却価額：5,000株×@650円＝3,250,000円
- ・貸借差額：3,500,000円－3,250,000円＝250,000円（帳簿価額＞売却価額→売却損）

有価証券の売却に関する問題は、第102回の問5や第110回の問1、第116回の問5、第123回の問4、第126回の問4、第131回の問1、第142回の問4、第147回の問5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 固定資産の購入に関する問題です。

まず、問題文に「代金のうち ¥ 60,000 は小切手を振り出して支払い」とあるので、60,000円は当座預金の減少として処理します。

また、商品売買取引以外で発生した未払債務240,000円（＝300,000円－60,000円）は、**未払金**で処理します。うっかり買掛金で処理しないように気をつけてください。

- 商品売買取引に伴い発生した未収債権・未払債務 → 売掛金・買掛金
- 商品売買取引以外で発生した未収債権・未払債務 → 未収入金・未払金

固定資産の購入に関する問題は、第100回の問5や第101回の問4、第106回の問1、第109回の問3、第113回の問3、第116回の問2、第123回の問3、第128回の問5、第129回の問2、第132回の問3、第139回の問2、第143回の問4、第145回の問4、第148回の問4、第150回の問1でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 再振替仕訳に関する問題です。

再振替仕訳は前期末に切った決算整理仕訳の逆仕訳になるので、まずは前期末の仕訳を考えましょう。

問題文の「前期の決算整理にともない計上した未収利息 20,000」から、前期末に利息を見越計上していたことが分かります。

☆参考・前期末の仕訳

(借) 未収利息 20,000 / (貸) 受取利息 20,000

あとは、貸借をひっくり返して解答仕訳を導き出すだけです。

★解答・再振替仕訳

(借) 受取利息 20,000 / (貸) 未収利息 20,000

再振替仕訳に関する問題は、第147回の問4でも出題されているので、あわせてご確認ください。どちらも非常に簡単な問題です。

4. 消耗品の購入に関する問題です。

本問は問題文に、「当店では文房具については決算時に棚卸を行い、当期の使用額を費用に振り替える方法をとっている」とあるので、消耗品購入時には【消耗品】勘定を使って処理していたことが分かります。

☆仮に、決算期末において5,000円の未費消分があった場合の仕訳

(借) 消耗品費 75,000 / (貸) 消耗品 75,000

ではついでに、消耗品を購入時に「費用計上」する場合の仕訳も確認してみましょう。購入時に資産計上した場合と大きく異なる点は、決算期末に消費していない分を資産計上する点です。仕訳は以下のようになります。

☆消耗品取得時の仕訳

(借) 消耗品費 80,000 / (貸) 現金など 80,000

☆決算期末において5,000円の未費消分があった場合の仕訳

(借) 消耗品 5,000 / (貸) 消耗品費 5,000

ポイントは、決算時に振り替える額が未費消分なのか既費消分なのかという違いです。簡単にまとめておきますので、この論点についてはこの場で理解するようにしてください。

～まとめ～

■消耗品を購入時に資産（消耗品勘定）処理する場合

購入時…支出額を消耗品勘定で認識

決算時…既費消分を消耗品費勘定で認識

■消耗品を購入時に費用（消耗品費勘定）処理する場合

購入時…支出額を消耗品費勘定で認識

決算時…未費消分を消耗品勘定で認識

消耗品に関する問題は、第 101 回の問 5や第 144 回の問 3でも出題されています。あわせてご確認ください。

5. 売上取引・商品券に関する問題です。

まず、問題文の「代金のうち ¥ 60,000 は当店発行の商品券で」から、以前に発行した商品券の額面金額を支払う義務が消滅したことが分かるので、商品券勘定を 60,000 円減額します。

★解答①（当店発行の商品券を受け取ったときの仕訳）

（借）商品券 60,000 / （貸）売上 60,000

残額の 40,000 円（=100,000 円-60,000 円）については、簡単な現金売上の仕訳なので特に問題ないと思います。

★解答②（残額を現金で受け取ったときの仕訳）

（借）現金 40,000 / （貸）売上 40,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

商品券に関する問題は、第 103 回の問 4や第 104 回の問 3、第 114 回の問 1、第 120 回の問 2、第 124 回の問 1、第 129 回の問 3、第 138 回の問 5、第 145 回の問 2でも出題されていますが、本問（商品券の授受）と第 114 回の問題（商品券の精算）が解ければ、簿記 3 級の商品券対策はじゅうぶんです。